

## 多汗症について

多汗症（たかんしょう）とは、日常生活に支障が出るくらい発汗する（汗がでる）病気のことを言います。全身性と体の一部にのみ発汗が増加する限局性に分類されます。

肥満、甲状腺機能亢進症、高血圧など病気による続発性多汗症（表1）と特に病気のない原発性多汗症に分けられます。

### ●限局性多汗症の特徴

- ・初発が25歳以下
- ・対称性の発汗
- ・睡眠中は発汗が停止している
- ・1週間に1回以上の多間のエピソードがある
- ・血縁者に同様のエピソードがある
- ・日常生活に支障をきたしている

Honbergerらは上記のうち2つ以上、6カ月以上満たすとしています。上述の続発性多汗症と上記の基準で、原発性限局性多汗症の診断は可能となります。

表1

疾患群	代表的な疾患
代謝内分泌	甲状腺機能亢進症、糖尿病、更年期、下垂体機能亢進症、末端肥大症、肥満、妊娠
神経内分泌	褐色細胞腫、カルチノイド症候群
悪性腫瘍	白血病、リンパ腫、Hodgkin病、腎細胞癌
感染症	急性感染症、慢性感染症（結核、マラリア、ブルセラ症）
神経疾患	Parkinson病、脳血管病変、末梢神経障害、神経障害による無汗に対する他部位での代償性発汗（脳梗塞、脊髄損傷、神経障害、Ross症候群）
中毒	アルコール、コカイン、ヘロイン、抗コリンエステラーゼ薬中毒
薬剤	抗うつ薬、制吐剤
その他	Frey症候群、エクリン母斑、不安障害

## 多汗症の治療について

### 1) 非手術療法

内服や外用剤での治療になります。

## 2) 手術療法：胸腔鏡下胸部交感神経遮断術（手掌の多汗症に対して）

胸腔鏡での手術になります。胸腔鏡下胸部交感神経切除術（EST）とも言われます。数ミリの傷で手術が可能です。入院期間は、数日の短期入院です。当院では、片側手術を原則にしています。理由は、代償性発汗（手術後に他の部分から汗がでる状態）の程度を確認するためです。



### 患者さんへのメッセージ

当院では以前は心臓血管外科で行われていた治療ですが、現在は呼吸器外科で手術をしています。多汗症で来院される方は、日常生活で本当につらい思いをされています。

多汗症に対して絶対的な手術の基準はありません。外来では、まず日常生活のどのような場面で、どんなことが起こっているのかを詳しく伺います。時には、手術する季節も踏まえ治療のタイミングを考えていきます。

[呼吸器外科はこちら](#)